

SC07 報告

齋藤佐代子 勝山聡子 中川しおじ

女子美術大学芸術学部メディアアート学科

11月10日～16日の日程でアメリカはNevada州・RenoにてSC07が開催された。(図1) SCとはSuper Computingの略で、本学会はスーパーコンピューティングの世界最大の学会である。今年は300近いブースが出展し、そのうち大学関係のブースは40ほど、さらに日本の大学関係はおよそ10ブースほどを占めた(SC07 EXHIBIT DIRECTORYより/中川調べ)。女子美術大学は昨年に引き続き、埼玉工業大学の協賛展示として参加させて頂いた。展示内容は大学に於けるCAVEコンテンツ制作実例と大学の活動についてである。

今年は展示ブースがJAXAと斜め向かいであることから、埼玉工業大学 井門教授のご発案で埼玉工業大学、JAXA、女子美術大学で統一感のある装飾を行う事となった。(図2) 展示ブースには八角形のタワーを設置し、各面に大型プリンタで出力したタペストリーを配置した。また裸眼立体視PC、Macintosh 2台を用意、CAVE上映の様子をプロジェクションした。(図3)

展示では、好みの柄を選択し着物の柄を自動で生成するシステムを展示していた同志社大学、葛飾北斎の赤富士をプログラミングで生成した展示などもあり、日本の伝統的な芸術をプログラミングという技術で表現されていたのが印象的であった。また分光立体方式(Infitec)のメガネとPHANTOMを使用した展示もあり、表示されていた人体のコンテンツは机の上に投影され、それこそ解剖台で皮膚や筋肉を見ている感覚であった。

今年は大学勢に活気があり、お互いのブースを行き来し親交を深めたようである。本学は美術大学であるので、普段日本ではお会いする機会のない専門家の方々の貴重なお話を伺えたことは得難い体験であった。

研究成果を発信する貴重な機会を与えてくださった埼玉工業大学 井門教授、展示を支えてくださった皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。



図1 リノの街



図2 揃いのデザイン



図3 展示の様子



図4 展示を前に記念撮影